

サーラ・ヴェグナートさん 介護スキャンダルの顛末を語る

介護職員のサーラさんが石を投げて、それが思いがけず大きな波紋になって、最後には、スウェーデンのすべての介護職場に内部告発を奨励する法律を作るほどにまで、社会が反応した事に興味があります。あの介護スキャンダルは、なぜあんなに大ごとになったのか、最初に一石投じたサーラさん自身から聞きたいのです。

サーラ 私がやったことは、本当にタイミングが良かっただけです。1980年代の終わりに90年の初め頃、スウェーデンは福祉のお金を削らなければならなくなりました。人手を削った。失業率は高まり、みんな福祉の質が落ちることはわかっていた。でも誰もいえなかった。そんな中で民営化が始まり、みんなの鬱憤はたまっていた。だから、私がテレビ局のマイクに向かってちょっと実情を話したら、「ここもそうだ、あそこもそうだ」となった。ちょうどいい時期だったのです。

サーラさんは、なぜあのナーシングホームに勤めることになったのですか？

サーラ 小さいときから、看護婦か警察官になりたかったのです。高校生のとき、警察官になるには身長が160センチ以上必要だということを知りました。今はその制限はなくなりましたが。私は157センチ。だから看護婦になることに決めました。

私は高校で准看護婦になるための職業コースに二年間在籍しました。今はその制度はなくなって、高校を卒業してから1年半のコースで学ぶと資格がもらえるのですが。でも、多くは看護大学に3年在籍して、看護婦の資格を取るようになっています。

私は学校を卒業してから、すぐに仕事についた。精神科看護婦の資格も取ったので、総合病院の精神科外来に勤めたのです。その後、カロリンスカの病院など、外科で働いたこともあります。

それで、97年にソルナ市にあるポールヘムスゴーデン (Polhemsgårdens äldreboende) に就職したのです。経営はISS care というデンマークの掃除会社のスウェーデンでの子会社でした。そこは84床の高齢者介護施設です。市が建物を新築し、ISSに運営を委託したのです。その会社に採用された私たちは、97年9月1日から全員仕事を開始しました。その老人施設は、痴呆症の人と普通の人と混ざっていました。

その会社が、どうしてうまく運営できなかったのですか。

サーラ 会社だけの問題ではないと思う。民営化といっても、質を保たなければならぬ委託方式でした。市はどういう状態の人が集まるか、を言わずに、ただ「一人いくら」と値段を決めて請け負わせた。競争入札で決めたのです。そして、重度の人ばかり、その施設に入れました。

何も無いところから始まった職場です。職員はいろんな所からの刈り集めでした。施設の介護はチーム仕事です。しかし、いきなりいいチームは出来ない。80人分のベッドが10日間で埋まってしまった。もう、ぐちゃぐちゃだった。9月1日開設で、9月10日に満杯でしょ。乱暴でした。

スタートする前から、会社・市・従業員・組合で話し合う機会がありました。組合は、給料はいくら、という交渉をしていた。4,5ヶ月前から話し合いは始まっていた。その時、組合は「急激な入居ではうまくいかない」と言っていたのです。

なのに、なぜ急激な入居を始めたのか。ソルナ市には十分な老人施設がなかったのです。市は介護の必要な高齢者の面倒を見る責任を負っていた。それまでは隣の市や遠い市の施設に預けることでしのいでいた。その預け代、つまり他の自治体に払うお金はべらぼうに高かったので、新しい施設をつくって、お年寄りを一挙に自分の市に戻したかったのでしょう。

という事は、市にかなりの責任がある？

サーラ 市は全責任を負うべきだと思う。民営化したと言っても、委託しただけ。全責任は市が負うべきことなのです。なのに、どういう状況になるかもわからず、ただ値段の交渉だけをして高齢者をどんどん入れた。だから会社ばかりを責めるべきではない。

入札のとき、要介護度の重い人・軽い人で入札価格、つまりお世話価格は変わらなかったのですか？

サーラ それは会社の間違いでしょう。この会社は株式会社。株主はスウェーデン以外の国にいる。株主は何をやっても、投資金額に対する利益追求を求めます。私はスウェーデンの民営施設でも働いていたことがありますが、自分の国の高齢者のためにやっているという意識があるので、職員教育や施設設備の充実のために、売り上げの多くを使っていました。会社がうまく廻っていけばいい、という発想だった。だが、このISSという会社は利益を優先していた。この会社も、かなり問題があった。お金を儲けるのは当然だ、という発想だった。

重い人が入ってきた後、人手の要求は、出来なかったのですか？

サーラ 人数を増やしてくれ、という組合の要求に対して、「今は最初だから……。この人数は、他に比べても普通である」と言っていました。

会社は、人手の増強、つまり請負金額のアップについて市と交渉したのでしょうか？

サーラ 市は「契約しておいて、今さら何を言っているのだ」とつっぱねた。

サーラさんから見ても、人手は足りないのは明らかでした？

サーラ スウェーデンの他の施設より少なかった。会社は「そのうち良くなる。少しずつよくなる」と言い続けました。事件が報道され、大ごとになってから、市はメンツにかけて「契約不履行だ」といいだし、委託契約を解消し、市営にした後で職員をかなり増やしました。

スウェーデンでは、職員密度という数字で表すのですが、その開設当時は、一人の入所者に対して 0.71 だった。スウェーデンの標準は 1 : 1。非常に節約してやっている施設で 0.95 なのに、です。

(通訳者の原昭治さんの補足): 痴呆棟では 1.1 とか 1.2 とかが普通です。サーラの働いていたところは、今現在 (2000 年 1 月) では 1 : 1 以上に増やしている。フルタイムの労働力で、です。

職員組合は、この点は問題にしていたのですね。

サーラ 組合はよそより人手が薄いことを知っていて、交渉の時にいろいろ言っていました。

人手が薄いのなのに皆さんが就職したのは、給料がよかったからですか？

サーラ まあ、この国の標準的給料でした。でも新設だし、これから良くなるのではないかと期待して勤めたのです。

入札額などは情報公開されるのですか？

サーラ 一人あたり 1 日 550 K R で落札です。事件が起きてから知ったのですが、一番金持ちの市では 1100 K R もかけているところがありましたよ。

(原さん補足): どこでもだいたい 1000 K R 位は出していました。安さ、だけでなく、どういう介護内容かも勘案して契約するものです。だから、一番安い所ではなく、中くらいの値段のところを採用する場合もある。市営でやるとするのなら、一人あたり 1200 K R が普通ですから。ダンデリード市 (スウェーデンで一番のお金持ち) なら、一人あたりそれくらい払っていた。入札価格は実に様々です。

ソルナ市の 550 K R は驚くほど安いですね。

サーラ 他の市に預けていた時は 1200 クロナ払っていたのですから、だいぶ安くなった。

ソルナ市は貧乏な町ですか？

サーラ いいえ、普通です。ただし、ソルナ市は高齢化率が高い。お金はあった。貧しい市ではなかったが、老人が増える傾向にあるので、「ここで何とかしなければ」という意識があったのでしょうか。

(原さん補足) お年寄りにかかる1日あたりの費用は1100KRから1200KRくらいとしても、それでも実は、病院よりはるかに安いのです。そんな高齢者が病院(県立)に入院した後、県はこの入居者に対する治療は終わった、と決めると、5日以内に引き上げない場合、そこから先の入院費を市から取ることになるのです。それが1日2800KR位。だから、通告を受けた市は、あわてて引き取り、老人ホームかナーシングホームか、に入れなければならない。だが、入れるベッドを持たない市では他市にベッドが空いていないか、交渉することになる。他市から、「うちは空いているけど、1500krだよ」と言われたりする。それでも病院の半額です。

問題はどのような過程をへて顕在化したのですか？

サーラ 開業時から混乱は続いていました。7,8週くらいすると、みんな疲れ切ってしまうと、病気がちになったり、燃え尽き症候群になったりしていた。そこに偶然、スウェーデン国営放送のジャーナリストがカメラマンをつれてきて、「状況はどうだ、話して欲しい」と言われた。そこで私が正直に話をしたら、火がついた。私が意図的に告発したわけではありません。匿名で誰かが「あそこはひどいらしい」とテレビ局に連絡したのでしょうか。

日本なら、報道が入ろうとしても門前払いをされるでしょうに、そのテレビは職場にずかずかやってきたのですか？

サーラ スウェーデンは情報公開法の中に、県や市の建物には誰が入っても良い、個室はダメだが、それ以外は拒めない、という規定があるのです。委託している施設でも同じです。だから、ずかずか入ってこれるのです。

税金が使われている全ての組織には、だれもが「入ってもよろしい」ということになっているのです。

入る時は、施設長に断る必要もないのですか？

サーラ 必要ない。誰でも入っていい。ただし、入所している人のプライバシーを侵害するのはだめです。職員である私は、秘密にするべきではない部分に関しては、自分の気持ちを自由に話すことも出来るのです。

でも、他の職員は応じず、あなただけが応じた？

サーラ 他の人には下手なことを言うと会社からにらまれる、という恐怖心があった。私はお年寄りがかわいそう、という一心でしゃべった。あんなに大ごとになるとは思っていませんでした。

クビは心配しなかったのですか？

サーラ 将来、仕事はもらえなくなる、という恐怖心はなかった。いつでも仕事はあるだろう、という気持ちはあった。それより、こんな状態は早く終わってほしい、と思っていました。

僕はそのテレビを見てないのですが、テレビは何を映したのですか？

サーラ 個人の部屋は写しませんでした。台所などを写しました。だが事件が大きくなって、ジャーナリストがたくさん集まってくるようになると、いろんな職員が対応せざるを得なくなった。そうなってくると、家族の中には「うちの親を撮ってもいい」という人が出てくるようになり、そこからお年寄りの床ずれの写真が出るようになった。(テレビ放送の翌日の夕刊紙の写真には、テレビ画面の床ずれの場面が映っているので、これはサーラさんの勘違いか)

最初に報道したジャーナリストに会いたいですね。

サーラ 私に最初にインタビューした女性はカーリン・スヴェールさんです。今、民間テレビ局 4 チャンネルに勤めています。ジャーナリスト大学の大学生の卒論で、サーラ法が出来るまで、を書いたものが2つあり、これを見れば、今回の話の全容はわかります。学校に電話して送ってくれ、といったら一発でおくってくれます。どのくらいのジャーナリストが何回訪問して、どういう効果があったか、という統計まで出ている。スウェーデンテレビの前にある大学です。

サーラさんがテレビに出た後は予想外の展開で？

サーラ すごい反響でした。いろんなジャーナリストが集まってきたので、フルタイムの仕事が終わった後、ジャーナリストのインタビューに答えて、1週間で延べ20時間以上のインタビューでした。

事件は雪だるま式に大きくなっていきました。次の年は国政選挙でした。選挙の討論の題材に出され、いろんな議論に私も引きずり出されました。

老人ホーム民営か公営か、の戦いになったのですか？

サーラ 選挙の時はいつもそうですが、穏健党は民営化を進めいた。選挙の情勢は、社民党が弱くなっていて、穏健党が勢いを増していた。

〔(原さん補足)大都市では穏健党が力を持っていて、民営化をどんどん進めていったのです。〕

サーラ 事件は、公営派には追い風になったでしょう？

サーラ これは私の意見ですが、選挙で社民党はこれをうまく利用したと思います。しかし、民営化は学校も他の福祉関係たとえば児童福祉なども同じ流れになっていて、国全体の流れとも言えます。もう避けられないと思う。というのは、社民党が政権を持っている市でも、民営化が進んでいるのです。ソルナ市も社民党政権なのですよ。

ISSは株主に配当していたんですか？

サーラ 会社が最初にやった失敗は、スキャンダルが噴き出たとき、家族会に対して「我々は利益をこれだけ出して、これだけ本社に送った」と言ったことです。「こんな安い費用で運営して、その中から利益を出した」とわかったので、大ごとになりました。もちろん、会社が言わなくても、家族会が調べれば分かる話だったのですが。

〔(原さん補足)スウェーデンの福祉民営化は5企業くらいの独占状態です。ISS CAREはその一つです。〕

いろんなジャーナリストが押し寄せてきてからは、あなた以外の人も対応するようになったのですね？

サーラ 職員たちは、もう本当のことを全部話そう、という気になって、手の空いている人はみんなインタビューを受けました。

でも、最初にインタビューを受けたのが私だったので、私がなんとなく代表みたいになってしまった。

テレビにしゃべる時、上司からのプレッシャーを感じなかったのですか？

サーラ 先ほども言いましたが、情報公開法に基づいて、自分が何を言っているか、も知っていました。だから、上司にも何も断らなかった。インタビュー時間は、たった5、6分でした。

その5、6分で何を語ったのですか？

サーラ 「この状況はどうなんですか？」と聞かれて、それを答えたまでです。

日本では、「床ずれが発生した」とサーラさんが告発した、と伝え聞いているのですが。

サーラ 人手は足りない。辱そうが出来にくいマットレスを会社が買うことすらけちった、といった事実を話したのです。そこが大きく取り上げられたのです。やむを得ない辱そうもありますが、出費を抑えるために防止マットを買わないのは問題でした。

〔(原さん補足)このマットを使うのは、スウェーデンでは義務づけられているはず〕です。

当時の職場の状況をもっと詳しく話してください。

サーラ 各階に、21人のお年寄りがいて、職員は5人しかいなかった。非常に重度な、寝たきり状態の人が多かった。起こすにはリフトが必要だった。起こしてトイレに連れて行くと、シャワーの使える車椅子も必要。床ずれ防止マットレスは重要で絶対に必要な補助具のひとつです。リフトは21人に2人分しかなかった。普通は2人に1台くらいあるものです。食事の一部は職員が作らされていました。そして、食べさせなければならなかった。

料理と言っても、昼食が一日で一番のごちそうなのですが、肉や魚はアルミのパックに入ってくる。だが、ジャガイモやライス、野菜などは私たち職員が作って付け足していた。配られてきた魚や肉に付け足すのです。それ以外に皿洗いもしなければならぬ。普通は、厨房があってそこに回せばいいのだが、安く上げるために厨房もなかった。

21人の内訳をもう少し詳しく聞かせて欲しいのですが？

サーラ 4階建ての各階に21人で、合計84人。私のいたフロアの21人の中で12人は車椅子で、全介助が必要。残りは自分でやれる人もいたが、痴呆症の人もいて、それは大変だった。精神病のお年寄りも混ざっていて、4つの棟はごちゃごちゃだった。一番上の階、が私の担当だった。当時は混乱していて、各棟に名前も付いてなくて、そんな混乱のなかで、事件が起こったのです。

自分で食べられる人はどれくらいいましたか？

サーラ 5人は食べさせてあげなければダメ。残りの人も、前掛けを着せてあげたり、という必要がありました。

トイレが自力で出来る人は？

サーラ 一人、二人は自分でいけた。だが、後の人は、歩行器で行っても座らせるときに介助を必要としていました。

おむつを使う人は？

サーラ 半分以上はおむつを使う人でした。自分で出来るといっても、不安なので職員

に付けて欲しい、という人が多かった。

軽い棟と重い棟、というようには分けなかったのですか？

サーラ ごちゃごちゃだった。職員 5 人というのは昼の介護の数。夜勤は各階に 1 人ずつ。他に 1 人だけ各階共通の援助者がいた。だから、夜は全体で 5 人体制だった。

夜は大変でしょう？

サーラ フリーの人手は 1 人。あちこち行かなければならないので、大変だった。体位交換のときは、みんなに呼ばれる。だから、フリーの人は常に 50 人分働かなければならなかった。だから、重たい仕事ばかりしなければならず大変だった。

辱そうはどこにできていたのですか？

サーラ お尻とかかとです。
どれくらいの人数が？

サーラ たった一人です。私のいた病棟で。

たったの 1 人だったのですか！ もっと大勢いたのかと思いました。で、どれくらいの大きさの？

サーラ 直径 5 センチくらいでしょうか。ここに入所してから出来たものです。辱そうは一晩で出来るときもあるのです。人手が少なかったのと、防止マットレスを使わなかった事が原因です。

ちょっと話題を変えます。日本では縛られたり閉じこめられたり、などの次元の低いことが老人病院や精神病院、時には老人ホームで未だに行われていますが、あなたはスウェーデンの老人ホームでベッドに縛りつけられたお年寄りを見たことがないのですか？

サーラ それは、この国では、やっちゃいけないことになっているから、やっていないと思う。私は見たことがない。

精神病院では縛っていないですか？

サーラ 精神病院では縛ることがあります。私が精神科で働いていたときには、女性で不安定な状態が最高潮に達したときに使うことができました。今は、接し方も進歩して、そういうときには職員が抱きついて「落ち着いて」と言うと……それこそ心臓音が伝わるくらいしっかり抱くなどすると、縛らなくても収まるのです。

痴呆症の人が縛られる事は？

サーラ 痴呆症の人は、自分の意志に反するようなことをされると、かえって状態は悪くなる。だからスウェーデンの痴呆高齢者介護では、職員は縛るような不快な事はしないのが常識になっている。意に反して縛るとかえって具合が悪くなる。それが常識になっているのです。

看護婦のための教育機関では、最初から、それはちゃんと教えられます。痴呆症の人たちが、危険なことをしないように、ナイフやコンロは職員でないと使えないような仕掛けにしている。その人達が危険を冒さないように、未然に予防されるように。今から10年前の、私が受けた最初の教育の時から、その事はきちんと教えられました。

話を事件に戻します。事が大騒ぎになって、会社側から「おまえは辞めろ」と言われなかったのですか？

サーラ 会社からは、君は大変なことをしてくれた、君を訴える、と言われました。家族会が君を訴えるぞ、と脅迫されました。だが、私は全然恐くなかった。

実際、家族会は訴えた？

サーラ 私は法を犯していなかったのですから、家族会がそんなことはしない、のはわかっていました。

会社からプレッシャーを受けて、どうされましたか？

サーラ 私と話すのではなくて、組合と話してください、と会社に通告しました。組合は100%私を守ってくれる、と思っていました。そのために組合費を払っているのですから（笑）。会社との関係は、それ以後、何もありませんでした。

テレビで放映されてすぐ、市はISSとの契約をうち切りましたね？

サーラ 市は、会社が契約しただけの事をやっていなかった、という理由で契約を破棄して、市が直接運営することに。契約通りの内容を履行しないと自動的に市が運営を取り上げる、と言うことも契約書に書かれていたのです。ですので、職員は市の職員となりました。

事件があってから、私は「辞めます」と通告しました。そして1ヶ月後のクリスマス前に辞めて、カロリンスカ大学病院の外科に戻りました。

その時のカロリンスカは長期に休む人の代用職でしたので、仮の職場。その後、ブロンマゴーデンというナースィングホームで8ヶ月働いてから、今住んでいる所に移ったのです。

今一緒に住んでいる彼氏に会ったのは1998年の春。彼はゴルフのセールスマンでストックホルムには住めない、というので、彼氏の元に移ったのです。そこで老人福祉の仕事をしたあと、今また病院の外科の職員。だが、外科病棟も老人が一杯です。お風呂でこけた、など。老人とは縁が切れません。

ポールヘムスゴーデンでは、あなたは職員の中で浮いてしまうことはなかったのですか？

サーラ 暴露したことは本当のことだから、みんな一緒になって、「正しいことをした」と思っていました。仲間割れすることはありませんでした。

市が契約を破棄して直接経営するようになってから、変わりましたか？

サーラ 一階を痴呆症専門病棟にしたり、といった改善はありました。

ソルナ市内部の責任問題は怎么样了のですか？

サーラ 市議員の社民党の責任者でもある福祉担当の行政官が辞めました。その人は政治家そのものも辞めました。

スウェーデン人は、官僚もしながら政治家も出来る。だから、市の福祉行政の責任者が政治家もやっていたのです。

〔(原さんの補足)社民党政権の町でも民営化をやっている、とサーラが言っていたいい例が、ソルナ市なのです。〕

サーラ スウェーデンでは、政党がどうであれ、民営化の波はひとつのトレンドです。穏健党でも社民党でも、スウェーデン経済を立て直すためには、競争の原理の導入、民営化は避けられない、と考える人が大勢いるのです。

〔(原さん補足)大都市はこの傾向が続くが、田舎では社民的な、公営のままでいこうという空気が強いのです。〕

この事件が国政の問題になってからも、サーラさんは発言することがありましたね？

サーラ カロリンスカに行ったときには、論議は国会レベルの大きな社会問題になっていました。そして、社会サービス法の中にあらたに71条が作られました。医療関係の法律の中には、昔から、これと似たような法律、マリア法と呼ばれる法律がありました。例えば、どこかから移ってきた患者に辱そうがあれば、報告する義務は、もともとあったのです。それが介護施設にも及んだのが新しい法律です。

「高齢者に不利益な事態を見た職員はきちんと報告するべし」と言うのはすばらしい法律です。でも、これはスウェーデンの民営化傾向と関係があるように見えるのですが、民営化そのものについてサーラさんはどんな感想を持ちますか？

サーラ 民営化することによって、市が一人の高齢者に 1000 クローナ払って、そのうちの 200 クローナを企業が利益として懐に入れる、というのは私は納得できません。だが、市が直接やると 1200 クローナかかってしまうとも言われる。民営化は社会の大勢の人が言っていることだから、私一人ではどうしようもない。ですが、民営化も仕方ないなら、職員が協同組合的に経営すれば、配当も取られず済むし、うまくいくのではないのでしょうか。

サーラさんは賞をもらいましたよね？

サーラ 「ニールスベリ賞」という賞です。この人は昔の医師、診療所の医者でした。福祉的なことに力を入れたんで、ホームレス、アルコール依存症も診ていた。この人が、社会に対して役に立った人あげる賞を作ったのです。これは奨学金でした。3 万クローナです。

それから、「年間のスウェーデン人賞」の盾と花束も貰いました。スウェーデン人の投票によって選ばれるもので、国営ラジオで呼びかけて、今年のスウェーデンを代表する人を投票してもらうのです。私と競争になったのは、カール・ビルトという穏健党の元党首（コソボ紛争の国連の調停委員）でしたが、その人に勝って賞を受け取りました。

あなたの人生はこの事件で変わりましたね？

サーラ いいえ、変わりませんよ。ただ、社会の論争に影響を与えうることがわかって、さらに自分から参加したい、という気が高まってきました。

ご自身の事をもう少し教えてください。

サーラ 私は今、27 歳です。ストックホルム生まれです。小さいときに母が離婚して、義父と一緒に生活していました。18 歳で自立しました。弟は一人いて、食料品店のチーフをしています。コックの資格も持っています。母は歯科の看護婦。彼女のいとこも看護婦。この仕事はとっても好きだから、続けていきたいと思っています。

自分の名前が法律に付いてサーラ法と呼ばれることをどう思いますか？

サーラ 法律が出来た事には、少しは誇りに思っていますが、特別に意識はしていません。

社会省がソルナ市を調べて、報告書を出していますね。

サーラ なぜ社会省にいったか、というと、家族会が社会省に報告書を送ったのです。それで社会省がソルナ市に入ってきたのです。ストックホルムやゴットランドを担当していた行政官の人が監査にやってきたのです。全国のコミュニオンが色々なチェック機構を作りはじめたのは、ソルナの事件の後です。

話はまた元に戻ります。家族たちは当初から心配していたのですか？

サーラ 開設して3週間した頃から、職員や家族が毎週のように、市役所に行ったのです。電話したり、直接出かけたり。でも市の老人福祉課の最高責任者は「まだ始まって間がないのだから」って。会社に言っても「まだ始まって間がないから、これから良くなる」。

とにかく、市は真剣にそれを受けなかった。まさか大事になると思っていなかったのでしょう。たしか、私たち職員が最初に訴え出したのは、職場のチーフ（施設長）に対してです。しかし「予算がないからどうしようもない」でした。それで次に労働組合に訴える。組合は、組合員の労働環境に責任を持っています。それで、組合は、市の福祉管理局に訴えたのです。

とにかく、こんなに悪い状況では、お年寄りも1週間も持ちこたえられないと思えるのに、会社側は何もしなかった。補助器具も人数も。

施設長は、どうしていたのですか？

サーラ 本当のチーフは病気になっていました。燃え尽き症になった。最初の二週間で。その後、代わりに全く事情のわからないチーフがやって来た。引き継ぎも十分ではなかった。そういう意味では不幸なことだった。何から何まで悪かったのです。

最初のチーフは、オープンするまですごく働いて燃え尽きました。だから、開いた時点で、もうどうしようもなかった。彼女がやる気があったかどうかはわかりません。代替りのチーフはやる気も能力もなかった。会社そのものは、すごく大きい。経営については優れているのかも知れないが、施設運営、介護の仕方には、まったく無知だった。だから、誰でもいいからチーフにさせたのだらうと思います。

普通なら、現場の職員が忙しければチーフも手伝うでしょうに、そのチーフは手伝うこともしなかった。高齢者介護の経験がなかったのだと思う。

私たちの指摘にも、「聞いておきます」「考えておきます」というばかり。

会社は、この状況をどう把握していたのでしょうか？

サーラ 事件が表面化したとき、「そんなことは知らなかった。現場から何の報告もなかった」と言っています。チーフ自身が事態を深刻に受け止めていなかったのだと思います。

最初、採用されたときの印象は？

サーラ 私は広告を見て、そこに入る事に決めました。その時の広告は、別に大げさなことは書いていませんでした。新しく施設をオープンする、という簡潔な広告でした。全く新しいナーシングホームだから、オープンから参加できれば、いいものにできるのでは、という気持ちでした。

元の職場にいた人たちは、いまもいますか。

サーラ 一人も残っていないです。その当時から既に病欠は多かった。初っぱなから難しい状況で、そのうち良くなる、と思って頑張っているうちに、燃え尽きた。疲れたわけではなくて、他のことをやりたいので辞めた人もいます。

事件があってから、市は職員に料理を作らせる事はやめました。補助具も買ってくれました。どんどん職員の労働環境はよくなった。だから、あわてて辞める人はいなかったのですが。

市に運営が移ってから、私には「ここで仕事を続けますか」という打診はありませんでした。組合も「辞めた方がいいよ」と言ってくれた。カロリンスカも、すぐに雇ってくれることになった。それで辞めました。